

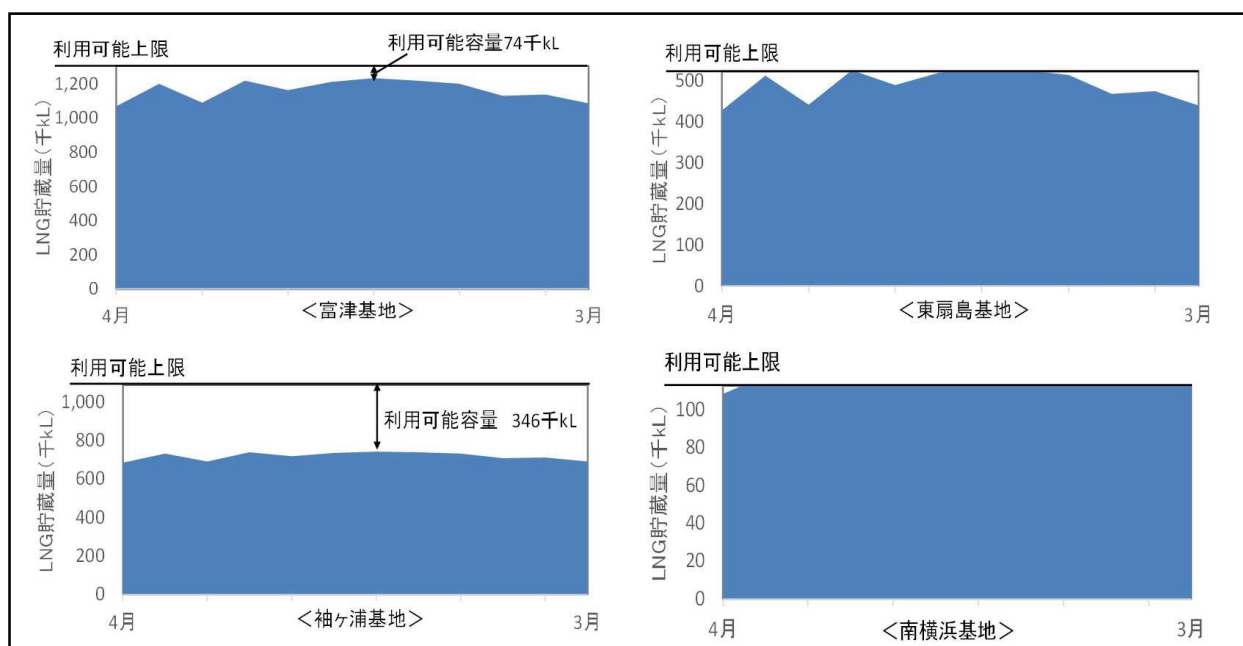
液化ガス貯蔵設備の容量等の公表

1. 現行設備

	富津火力発電所 LNG 基地	東扇島火力発電所 LNG 基地	袖ヶ浦火力発電所 LNG 基地	南横浜火力発電所 LNG 基地
受入船型	モス型 LNG 船 メンブレン型 LNG 船			
貯蔵設備	90 千 kL×4 基 125 千 kL×8 基	60 千 kL×9 基	35 千 kL×2 基 45 千 kL×2 基 60 千 kL×7 基 72 千 kL×1 基 90 千 kL×6 基	25 千 kL×1 基 35 千 kL×2 基 41 千 kL×1 基
気化設備	170t/h ORV×3 基 180t/h ORV×10 基	135t/h ORV×4 基 175t/h ORV×2 基 270t/h ORV×3 基	100t/h ORV×10 基 120t/h ORV×6 基 60t/h SMV×1 基 120t/h SMV×4 基	45t/h ORV×3 基 85t/h ORV×2 基
熱調設備	120t/h×2 系統	—	—	—

注：船舶の受入可否の判断については、船陸整合性の確認を必要とし、確認結果によっては受け入れることが出来ない場合があります。

2. 貯蔵余力（イメージ）



注：上図は LNG 貯蔵のイメージを示すものです。傾向として、季節に係わらず、LNG の受入状況、電力（ガス）の需要動向、発電所等の設備工事等によってタンク内の在庫は大きく変動いたします。

(1) ルームレント方式での余力

東扇島基地、南横浜基地、富津基地及び袖ヶ浦基地^{*1}のルームレント方式では、一般的な LNG 船 1 隻（約 120 千 kL）を受け入れられるだけの余力はありません。

(2) ルームシェア方式での余力

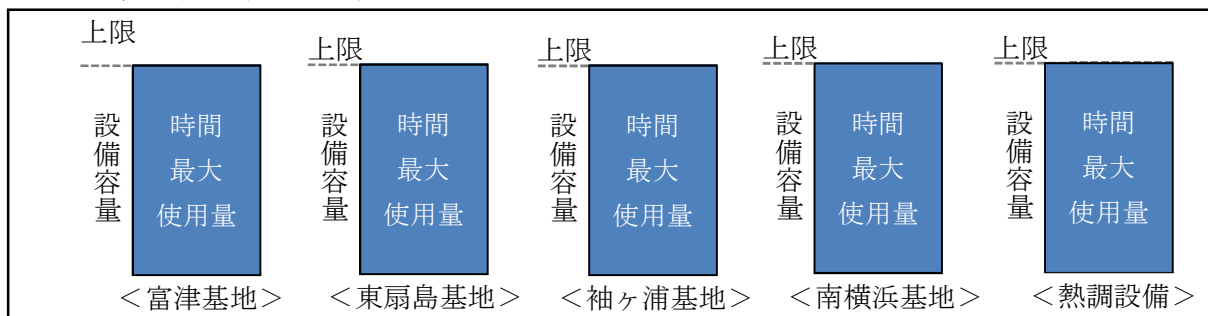
東扇島基地、南横浜基地及び袖ヶ浦基地*1のルームシェア方式では、余力はありません。富津基地の場合は、以下の利用条件で年間約 240 千 kL を受け入れられる見込みです。

<利用条件>

年間約 240 千 kL の受入可能量は、当社との間で LNG 貸借を行ったうえで、入船 1 回あたり約 120 千 kL を年度末に LNG 在庫が 0 となるように、6 カ月間一定の割合で払い出した場合となります。

*1：袖ヶ浦基地は共同基地であるため、当社の LNG 受入枠に制限があります。従って、LNG 貯蔵として利用可能容量が 346 千 kL あるものの、現実的に利用が見込めません。

3. ガス製造余力 (イメージ)



注：上図は LNG 気化余力及び熱調設備余力のイメージを示すものです。傾向として、季節に係わらず、電力（ガス）の需要動向、発電所や気化設備等の設備工事等によってガス製造余力は大きく変動いたします。

上記の通り、ご利用いただける余力はありません。

4. 受入可能と見込まれる LNG の品質

熱量	41 ~ 46 MJ/m ³ N	
液密度	430 ~ 465 kg/m ³	
組成	メタン	81 ~ 97 モル%
	エタン	0 ~ 17 モル%
	プロパン	0 ~ 3 モル%
	ブタン	0 ~ 2 モル%
その他	硫化水素	0.00 g/m ³ N
	全硫黄	0.00 g/m ³ N
	固形またはその他の不純物および異物を含まないこと	

注：受け入れることができる LNG の品質は、個別の基地利用の条件や個別の貯蔵設備の運用実態によって異なるため、上記の数値は目安とし、その他の項目については個別に協議させていただきます。

5. 配船計画のおおよその策定スケジュール

各年度の配船計画の策定スケジュールはおおむね以下のとおりです。

- ・前年度 7 月頃 : LNG 売主との間で配船計画に関する協議を開始
- ・前年度 12 月～3 月頃 : LNG 売主との間で詳細な年間配船計画を策定

(注) 上記は、おおよその策定スケジュールであり、具体的な配船計画策定スケジュールは、それぞれの LNG 売買契約の規定によって異なります。